

タブレットひとり1台の時代を迎えて

数年前から文科省は学校における ICT 教育の充実に取り組んできましたが、新型コロナウイルス感染症のまん延により、そのスピードは一気に加速され、今年度から全国で児童生徒1人に1台のタブレットが配置されることとなり、本校においても配置が完了しました。

本校におけるタブレット活用の基本的な考え方は次のとおりです。

- タブレットを授業で使いたいときにタイムレスで使えるようにしておくこと。
- 始業前や休み時間中でも、自席でタブレットドリルなど自由に学習に取り組むことができるようにしておくこと。
- 現段階では、タブレットの使いすぎなどによる健康被害も心配されることから原則、自宅への持ち帰りは行わないこと。

以上の基本的な考え方のもと、今後、生徒達は毎朝、登校後、保管庫から自分のタブレット端末を取り出し、授業中や休み時間にいつでも使えるように、自分の机に準備しておくことになります。特に、今年度から新たに教科書が改訂され、多くの教科書でQRコード等が配置されるなど、ICT機器の活用を前提にした構成になっています。

2，3年生は準備ができ次第、1年生については中学校の学習やタブレットの使用に十分に慣れてから実施と言うことになります。

新聞記事のタブレットへの配信について

天行健第1号裏面でお知らせした「学校経営グランドデザイン」において、本校の今年度の重点的な指導事項のひとつとして、授業や新聞・読書活動をとおして生徒の考える力を身に付けさせることをあげています。

その具体的な取組のひとつが、毎朝、生徒のタブレットに新聞記事を配信する取組です。

配信する新聞記事は、教職員全員が順番で、生徒に読んで欲しい記事を選択し、配信します。生徒達は、登校後や休み時間など、自分の都合のいい時間にタブレットを操作し、興味がある記事であれば熟読することになります。(本校では福島民報新聞を購読していますが、福島民報新聞社さんの承諾を得て実施します。)

中学生の読書量や新聞を読む時間は、ゲームやネット視聴などに比べて、決して十分だとは思われません。

生徒達にはぜひ、この取組をとおして、少しでも新聞や読書に興味関心を持ち、主体的に、生きて働く知識を身に付けていけるようになることを期待しています。

ご家庭でも、折に触れ、家族の団らんの話題にしていただけると効果もより上がるかも知れませんのでよろしくお願いいたします。

